

闘いを飛躍させよう



福岡地方裁判所へ提訴する日、原告団を代表して決意のほどを明らかにする小川・三川指導部11分会長。
三池のCO闘争は、ここに新しい段階を迎えた。今年から、いよいよ法廷で怒りの火がほとばしるのだ。



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
②3034番
編集兼 山下 開
発行人
半年間600円 送料共

組合員・家族、それに全国の守る
会会員・読者の皆さん、明けて
おめでとうございます。
今年もよろしくお願い申し上げます。
共にならばりましょう！

三つの提言

山下 過去一年間、いろんなことがありましたね。おもな出来ごとを振り返ってみますと、まず第一に三三三闘争で、国鉄の労働者をはじめ、郵便局、電通、それに学校の先生までがストライキをうったことを、あげるべきではないでしょうか。これは、戦前と戦後を通じて、これまでになかったことでした。

生産性向上運動 反対の声

それにも、海員組合や全職同盟などの同盟系の組織のなかから、「資本のすすめる生産性向上運動に協力しては、労働者は暮らしも権利も守れぬ」との声があがってきました。これらの力が、かなり大幅な賃上げを勝ち取る原因になったことは、指摘するまでもないでしょう。

一番目に思い当たることは、私たちが秋の期末手当闘争で、たとえ炭労要求の二十万円にまでは達しなかったにしても、一九万三千円という、全炭鉱(もちろん三池新労も)本来の期末手当要求額を突破する額を取ったことだと思えます。もっとも全炭鉱は炭労の勢力ははげしくあつて、またいざというときに組織下の炭鉱労働者に、申し開きできる口実をつくっておくために、ごまかしのインフレ手当といったものを要求はしました。

三番目に目をくくことは、なんといっても天井知らずのインフレと、灯油やガソリン、それにチリ紙や砂糖などが店頭から姿を消し

組合員・家族の皆さん、全国の守る会会員の皆さん、それに三池の闘いにお力添えくださる皆さん、明けておめでとうございます。特にこれは私たちが働く者にとって、また全国民にとって決定的な意味をもつ年になりそうです。まず年頭に当たって、決意を新たにしましょう。
さて大転換期を思わせる情勢の波のなかで、職場で家庭

ていったことでしたね。
なかでも石油関係の品ものは、必ずなる日は前まえからわかっていてはありました。事実私たちはもう早くから、石油に頼り過ぎるものやまらである

出席者

この座談会で話し合っていた人びとは、次の方がたでした。(敬称は略させていただきます)

下川次作(52才。港務運輸手、田中幸子(70才。主婦。諏訪川尻)、松尾しずえ(40才。大砂)、野田忠義(33才。四山。坑内機械工)池田重富(34才。三川坑外)、田上勇(42才。富浦。仕練工)、村上玲子(36才。四山)以上出席。なお司会には、山下書記次長が当たりました。

座談会

1974年を迎えて 何を思い、何を決意するか？

あまい資本の 誘いに警戒を

だからといって、「石炭掘れ掘れ」は、より少い人間でさらに資本に大幅な利益をあげさせよう、ということではないのだと思っ

以上ほかに、CO闘争の面について見ますと、大量四百二十人を原告団にして、大爆発損害賠償請求裁判が始まったこともあげなければならぬかと思えます。さて、新しい年はどんな展開を見せてくれるか。どう見ても、そして聞くと、皆さん方が経験なさったことを思い出し、たたきながら、ご意見などお聞きしたい、こう思っているわけですか？
さて、どなたからか、自分の思うことだけでよいですし、またこんな機会もそうたびたびはないのですから、率直な声をあげていただきたいと思います。

せからしゅうはなか

合併で釣る会社の魂胆

下川 私が動いている港務です。私は運輸手の一人ですが、所は、一度三井鉱山からつき放さ乗務手も同じようにつけられて、せからしゅうはなかで、合併で企業鉄道になったくらいは考えしかなかったです。五

(次ページへ続く)